
死が見える...

saika

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死が見える…

【Nコード】

N5710J

【作者名】

S a i k a

【あらすじ】

抗うことのできない死…。

何をどうしても、逃れられない運命の一部。

わたしの目には、死が映る。

わたしは同じクラスの男の子に言いました。

「あの…どこか具合悪いところとか、無い？」

男の子は笑って否定しました。

その翌日。男の子は登校の途中で、車に轢かれて亡くなりました。

わたしは隣の家のおじさんに言いました。

「最近事故とか多いから、気をつけてくださいね」

おじさんは笑って、お礼を言ってくれました。

次の日。おじさんは足を滑らし、川に落ちて亡くなりました。

わたしは幼馴染の女の子に言いました。

「何か悩みとかない？ あつたら、遠慮なく相談してよ？」

女の子は弱弱しい笑みで、頷きました。

その夜。彼女は自ら手首を切って、亡くなりました。

「ふう…」

わたしはお葬式帰り、深く息を吐きました。

…どーも注意はズレてしまっているみたいです。

わたしの目には、亡くなった人達の葬式のイメージが映るんです。

死期が近くなると、亡くなる人は黒いモヤに包まれ、お葬式のイメージがわたしの目に映ります。

でも何が原因で亡くなるのかは分からなくて…、毎回それとなく言葉をかけてはいるんですが…。

効果は無いようです。

ただ見えるだけの、無力なわたし…。

わたしはけれど、立ち止まり、振り返ります。

葬儀場から吹き上がる黒いモヤ。

…やがて、わたしにもあの存在が近付いてくるのでしょうか。

黒いモヤの正体…。

白骨の体を黒い布に全身を包み、巨大な鎌を持つ、

死神。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5710j/>

死が見える...

2011年1月16日08時43分発行